

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【青蓮寺ダム】

平成24年 3月

水資源機構  
関西支社

## 【青蓮寺ダム】

### 1. 事業の概要

特になし

### 2. 治水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.5 まとめ  本編 P2-32	・洪水時にダムの容量を有効に使うために、洪水調節を開始する前に洪水調節容量を極力使うことがないよう、努められたい。	・急激な流入量の増加時に、通常操作よりも放流量を増やす急激放流を行うことは操作としては可能であるが、下流河川の急激な水位上昇が発生し、実施には困難が伴う。ただし、計画規模相当の出水が予想される場合においては、洪水調節容量を確保するため対応が必要であり、流出予測の精度向上に努めていく。  【委員会の意見により修正】 →定期報告書P2-32の文章を修正する。 (今後の方針の2つ目の文章) 「・異常洪水の発生に備え、 <u>流出予測の精度向上</u> 、事前放流、3ダム統合操作方法について今後も検討を継続する。」	—

### 3. 利水

特になし

### 4. 堆砂

特になし

### 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.2 基本事項の整理  本編 P5-7	・環境基準の表記について、日吉ダムと青蓮寺ダムで統一すべき。	【委員会の指摘により修正】 ・表記を日吉ダムと合わせて修正。	—
5.7 まとめ  本編 P5-83	・分画フェンスなどの水質保全対策について、利水者のニーズを考慮するというのはどういうことか。	・分画フェンスにより淡水赤潮の発生は減少し効果を発揮しているが、分画フェンスの上流ではアオコの発生が見られるようになった。これに対する新たな対策として曝気設備の導入などが考えられるが、利水者に新たに費用の負担が生じることから、実施にあたっては利水者にも幅広く意見を聞く必要があるという主旨である。	—
5.7 まとめ  本編 P5-83	・貯水池底層のD0が回復しなかった原因として、地球温暖化の影響により全層循環が生じなかったことも考えられるが、底層D0の回復については、洪水の影響も大きいと考えられるため、洪水によるD0の回復構造の検討を行ってほしい。	【委員会の意見により修正】 →定期報告書P5-83の文章を修正する。 (評価の文章) 「平成18年度冬期からは地球温暖化や大きな出水がなかったことなどの影響により、3年間にわたり継続して、貯水池底層部の溶存酸素(D0)の回復が見られなかったものと思われる。しかし、平成21年の台風18号洪水による貯水池内の攪拌作用を経て、平成21年度の冬期にはD0の回復が見られた。」  (改善の必要性の2つ目の文章) 「貯水池底層部の嫌気化をはじめ、ダム湖水質管理を行う上で、利水者の水質に対するニーズを的確に把握し、必要に応じて対策の検討を進める。」	—

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.7 まとめ  本編 P5-83	・分画フェンスの設置後に、淡水赤潮からアオコに変化しているということは分画フェンスの影響だけでなく水質が悪化した可能性も考えられる。この変化を合理的に整理する必要があるのではないか。	【委員会の意見により修正】 →定期報告書P5-82に文章を追加する。 「淡水赤潮は貯水池表層の流れにより、流入端への集積と貯水池全面への拡散を繰り返している。そのため、貯水池上流部に分画フェンスを設置することで、流入端付近への淡水赤潮の集積を防ぐとともに、シスト（種）を発芽しにくい底層部に移動させることで、淡水赤潮の発生を抑制している。ただし折戸川では分画フェンス設置後、フェンス上流部において顕著にアオコが発生するようになった。折戸川は他地点と比較してT-P値が若干高く、分画フェンスを設置したことにより、表層の水が滞留することがアオコ発生の一つの要因となっているものと考えられる。ただし、発生したアオコは分画フェンス上流部に留まっており、フェンスにより拡散が防止されているため、ダム堤体付近の貯水池及び放流水等への影響は少ないが、今後も水質状況の調査等を継続していく。」	—

## 6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証  本編 P6-60, 84	・魚類の流入河川・下流河川の調査箇所は1ポイントであり、この結果のみで流入河川や下流河川全体の経年変化を評価するのは難しい。調査地点を増やして調査を行うとか、調査結果について適切な表現をする等が必要である。	・調査地区は、河川水辺の国勢調査マニュアルに従い、流入河川の調査地区は、湛水の影響を受けない1地区を設定しており、下流河川の調査地区は、ダム下流河川における代表的な河川環境を把握できる1地区を設定している。そのため、調査地区は増やさないが、今後は説明にあたって、適切な表現で行うようにする。	—
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証  本編 P6-174	・植物の調査結果を1999年と2004年を比較すると大きく変わっている。また、本来、あまり大きく変わらないコナラ群落とケヤキ群落の値が大きく変わっている。マニュアルの改訂等が平成18年（2006年）にあったということであるが、調査地点自体が異なっているということか。	・平成13年（2001年）及び平成18年（2006年）のマニュアルの改訂により、調査の頻度、調査地点の選定の考え方が変更されていることから調査地点の違いによる変化と考えている。	—
6.6 まとめ  本編 P6-113	・植生の傾向として、水際の本来の植生が消失して、外来植物のようなものが水の中で生育する傾向が推察される。高水敷や少し陸化したところにクズ群落が繁茂し、イタチハギ群落等の外来群落の増加も認められることから、これらを除去するような対策が望ましい。	【委員会の意見により修正】 →定期報告書P6-174の文章を修正する。 (今後の方針の1つ目の文章) 「植物については、湖畔周辺でクズ群落が近年増加していることから、 <u>水際の植生状況に留意しつつ監視を継続し、必要に応じて対策を検討する。</u> 」	—
6.6 まとめ  本編 P6-174	・種類数や個体数がほぼ同じだから安定しているといっても、全く違った内容のものが調査地点の間近にいることも考えられる。特に下流河川はダムの影響を受けて、悪いほうの環境に生息するものが多くなっているように思うので、もう少し詳しく分析し、ダムをつくった場合に、どのようなことが予想できるかを各ダムで総括して、その共通点を見ていく必要がある。	—	・ダムが及ぼす影響について、今後もデータ等の分析を行い、傾向の把握に努める。

## 7. 水源地域動態

特になし

## 8. その他

特になし

## 【青蓮寺ダム】

頁	修正前	修正後																																										
本編 P.5-7	5.2.1 環境基準類型指定状況の整理 図5.2.1-1 環境基準地点  <table border="1" data-bbox="243 472 1498 655"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ダム名</th> <th rowspan="2">環境基準</th> <th rowspan="2">環境基準 指定年</th> <th colspan="5">基準値</th> </tr> <tr> <th>BOD</th> <th>pH</th> <th>SS</th> <th>DO</th> <th>大腸菌群数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青蓮寺ダム</td> <td>河川A類型</td> <td>昭和49年</td> <td>2mg/L 以下</td> <td>7.5～8.5</td> <td>25mg/L 以下</td> <td>7.5mg/L 以上</td> <td>1000MPN/ 100mL 以下</td> </tr> </tbody> </table>	ダム名	環境基準	環境基準 指定年	基準値					BOD	pH	SS	DO	大腸菌群数	青蓮寺ダム	河川A類型	昭和49年	2mg/L 以下	7.5～8.5	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1000MPN/ 100mL 以下	5.2.1 環境基準類型指定状況の整理 図5.2.1-1 環境基準地点  <div data-bbox="2190 357 2522 462" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">             基準値の表記を修正           </div>  <table border="1" data-bbox="1567 472 2834 655"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ダム名</th> <th rowspan="2">環境基準</th> <th rowspan="2">環境基準 指定年</th> <th colspan="5">基準値</th> </tr> <tr> <th>pH</th> <th>BOD</th> <th>SS</th> <th>DO</th> <th>大腸菌群数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青蓮寺ダム</td> <td>河川A類型</td> <td>昭和49年</td> <td>7.5～8.5</td> <td>2mg/L 以下</td> <td>25mg/L 以下</td> <td>7.5mg/L 以上</td> <td>1000MPN/ 100mL 以下</td> </tr> </tbody> </table>	ダム名	環境基準	環境基準 指定年	基準値					pH	BOD	SS	DO	大腸菌群数	青蓮寺ダム	河川A類型	昭和49年	7.5～8.5	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1000MPN/ 100mL 以下
ダム名	環境基準				環境基準 指定年	基準値																																						
		BOD	pH	SS		DO	大腸菌群数																																					
青蓮寺ダム	河川A類型	昭和49年	2mg/L 以下	7.5～8.5	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1000MPN/ 100mL 以下																																					
ダム名	環境基準	環境基準 指定年	基準値																																									
			pH	BOD	SS	DO	大腸菌群数																																					
青蓮寺ダム	河川A類型	昭和49年	7.5～8.5	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1000MPN/ 100mL 以下																																					